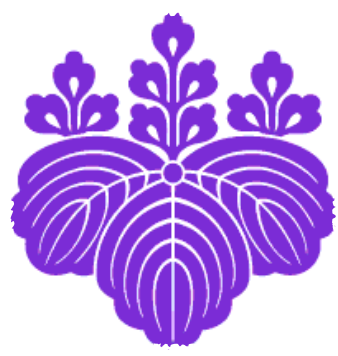




筑波大学
University of Tsukuba

視覚障害アスリートに対する鍼灸マッサージによる競技支援

宮本俊和（理療科教員養成施設・教授）、和田恒彦（理療科教員養成施設・准教授）、徳竹忠司（理療科教員養成施設・講師）、濱田淳（理療科教員養成施設・講師）、佐藤卓弥（人間総合科学研究科・博士課程3年）

概要

パラリンピックの中でも、視覚障害スポーツ（ブラインドスポーツ）は、多くのメダルを獲得して来た。しかし、ブラインドスポーツの競技支援は、オリンピックに比べ不十分である。本プロジェクトでは、視覚障害パラリンピアンと競技指導者から現在抱えている課題を聴取するとともに、鍼灸マッサージによる競技支援のあり方を検討した。



シンポジスト

実施内容及び成果

「パラリンピックにおける競技支援—視覚障害スポーツの競技支援の課題と鍼灸マッサージ—」シンポジウム

上記のテーマで、平成26年3月9日13時30分から16時に東京キャンパス文京校舎で、①水泳およびゴールボール競技指導者、②日本パラリンピアンズ協会会長、③柔道選手、④陸上競技選手をシンポジストとし討議をおこなった。その結果は以下のとおりである。

●パラリンピック選手育成 指導者側から見た問題点・課題



水 泳

水泳は世界のレベルアップが著しく、今までのような学校のクラブ活動の延長では勝てない。ゴールボールは社会人中心に構成され、練習場所に通える範囲での就職でないと選手を続けにくい。

両方とも、個人の経済面での負担が大きく、練習場までの移動と安全の確保、障害特性に理解ある指導者や施設整備の充実が必須である。



ゴールボール

●パラリンピアン競技支援の現状とブラインドスポーツの課題

選手が競技環境を確保するには、指導者やボランティアの育成および情報を提供するサポート体制が必須である。

視覚障害があるアスリートの外傷・障害予防やパフォーマンス向上には、視覚特別支援学校や大学との連携が必要である。

●柔道選手の立場からの競技支援の課題

海外勢の実力が向上し、メダル獲得が厳しくなっているが、視覚障害者柔道が海外で十分に普及したことが大きな理由である。

新しい選手の発掘と競技力向上が、他の視覚障害者スポーツと共通する問題である。

●陸上競技選手の立場と理療科教員の立場からの競技支援の課題

視覚障害者陸上競技選手は、練習場所・時間・伴走者の確保が充実しているべきである。

盲学校理療科で鍼灸マッサージの競技支援を学ぶ態勢が整えられれば、障害と障害者スポーツへの認知度の高い人材による競技支援が可能ではないか。



柔 道

地方自治体との連携

視覚障害スポーツ関係者との連携を進めるためにシンポジウムを開催し、全国の盲学校および視覚障害者スポーツ関連団体等に報告書を配布した

今後の展望

視覚障害アスリートの練習環境や指導者育成には、パラリンピアンとの連携と地域スポーツとの連携が重要である。鍼灸マッサージによる競技支援では、スタッフ養成のための、講習会を実施する。

その他

今後、スポーツ医学、障害科学、附属視覚特別支援学校、パラリンピアンズ協会との連携を推進する。